

第2次福生市環境基本計画(案)

私たちが変わり 私たちが変える エコシティふっさ

【概要版】

福生市環境基本計画は、環境の保全等に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、目標及び基本理念、施策の基本方向、環境配慮指針を示すものです。

この度策定した第2次福生市環境基本計画の期間は、令和6年(2024年)から令和15年(2033年)の10年間とします。令和10年(2028年)をめぐりに中間評価を実施し、国内外の情勢変化や市民意識の変化などを踏まえて、必要に応じて見直しを行います。

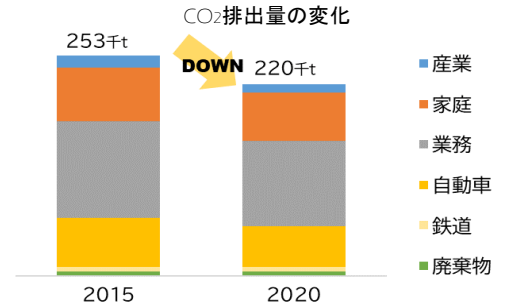
令和6年3月

福生市

福生市の環境の今は？ 課題は？

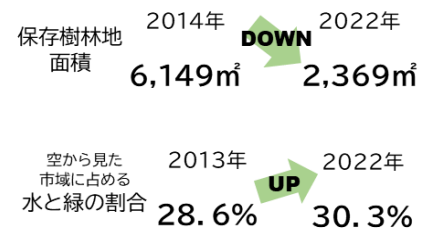
気候変動について

- 「今世紀半ばまでに人為的な温室効果ガスの排出を実質ゼロにする」こと(脱炭素・カーボンニュートラル)が、世界全体の約束になっています。
- 温室効果ガスの排出量は、店舗や事務所などの業務部門が45%、次いで家庭部門が26%、運輸部門23%の順に多く、割合の大きい業務・家庭部門では減少傾向がみられません。
- 再生可能エネルギーの導入可能性は、建物屋根での太陽光発電が中心ですが、その他手法をあわせた総量が不足するため、地産地消で市内のエネルギー需要をまかなうことはできません。
- このまま温暖化が進むと、今世紀末には平均気温が3.4℃上昇、猛暑日は25日増加する予測があります。
- 気象災害が激しくなり、多摩川の洪水や崖線などの斜面崩壊の危険性が高まること、熱中症の患者数が増えることなども考えられ、こうした事態への備えが必要です。



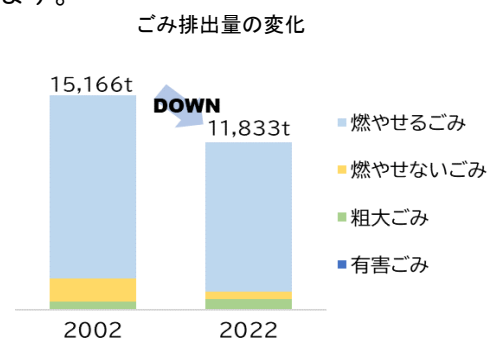
生物多様性について

- 私たち人間の命は、様々な生きものつながり=生物多様性によって支えられています。失われ続けてきた生物多様性を回復させるための緊急の行動が求められています。
- 福生市では、多摩川と玉川上水・熊川分水・田村分水が水辺のネットワークを、崖線沿いの樹林地が緑のネットワークを構築しています。
- 多摩川の水質は清流域の状態を取り戻しました。しかし高木の樹林化、河川流量の少なさなど様々な要因で河原固有の生きものの姿は少なくなっています。
- 礫河原再生の中心的な動きとして、研究者・市民・行政の協働で「カワラノギクプロジェクト」が継続されています。
- 崖線の雑木林、住宅地の中の農地は、住宅都市にとって貴重な緑です。しかし、宅地化の進展によって減少傾向が続いています。
- 人為的な持ち込みや気候変動により、人間の生活に害を及ぼす生物が侵入・定着する可能性に注意が必要です。



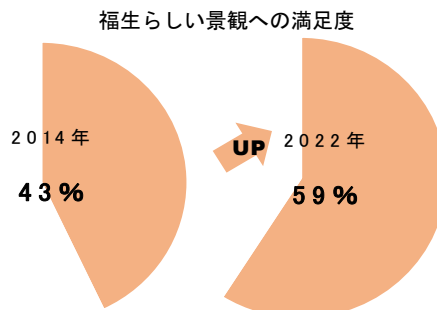
資源循環について

- 廃プラスチック有効利用率の低さや海洋プラスチックによる環境汚染が世界的に問題視されるようになってきました。
- 戸別収集や資源化品目の多さから、ごみ収集・資源化体制への市民満足度は高い状況です。
- ごみ総排出量は減少していますが、総資源化率は伸び悩んでいます。
- 生ごみの資源化は、農地も少ないことから市全体の仕組みを構築するのは現実的でなく、
- 堆肥化容器や処理機器の設置を支援することで資源化ルートの多様化を図ってきました。
- 食品ロス問題がクローズアップされる中、フードバンクとの協定締結など、中長期的な取組の体制が構築できました。



生活環境について

- 多摩川や玉川上水沿いなどの自然と、和洋折衷の歴史を感じる街並みが共存する独特の景観があり、市民や来訪者に親しまれています。
- ボランティアによるまちなかの美化活動が実施されています。しかし、ごみのポイ捨てや歩行喫煙の状況に対する市民の満足度は低くなっています。
- 一部市民から、玉川上水・熊川分水沿いに散策ルートを望む声が上がっていますが、民地を多く含むため実現可能性は低い状況です。
- 横田基地の存在することによる航空機騒音、一部区間における道路騒音の問題が慢性化しています。



環境学習について

- 前計画の期間中、環境活動に取り組む市民団体が数多く生まれ、個人によるボランティア活動も様々な場面で展開されるようになりました。
- 福生市環境マネジメントシステム(F-e)では、市民を含む監査チームが行政の取組をチェックする仕組みも成熟し、定着しました。
- 環境に関する高度な知識を持つ市民も存在しています。
- 人口減少・高齢化の進展と、ライフスタイルや価値観の多様化の中で、これまでと同じ形で環境活動を維持することが困難になると予測されます。
- 小中学校、高校では教科教育においてSDGsが扱われるようになっており、若い世代での環境意識・社会貢献意識は高まっていると考えられます。

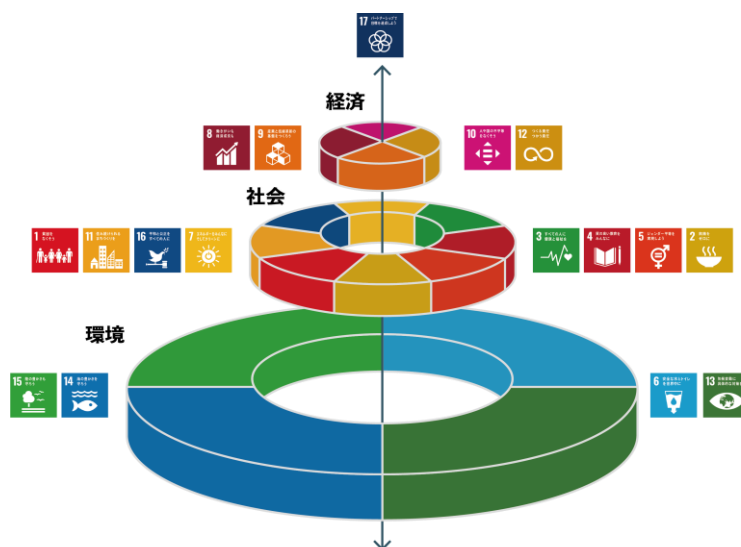
SDGs:持続可能な開発目標

平成27年(2015年)9月の国連サミットで、2030年までの達成目標として「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)」が国際目標として掲げられました。

SDGsは「誰一人取り残さない」ことを基本理念とし、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。

各ゴールは環境・社会・経済の各課題に関連します。これらは相互に関連しており、統合的解決が図られるべきとされています。環境施策と関連が深いゴールは、健全な社会や活発な経済活動の基盤として位置づけられています(ウエディングケーキモデル)。

本計画では、SDGsの理念を反映して取組を進めることを強く意識しています。



健全な社会・経済のベースに豊かな環境が必要です

私たちが変わり、私たちが変える 「エコシティふっさ」の実現に向けて

自然や文化が守られ、人と暮らしが大切にされている、そのために一人ひとりが環境と生活が両立する前向きなアクションをとっている・・・そんな「エコシティふっさ」のため、これからの10年で次のような姿を目指します。

気候変動

- 2050年脱炭素に向けた民生部門での取組が進展している。
- エネルギー効率を高め、可能な限りの再エネ生産、他地域からの再エネ供給が進んでいる。
- 将来の気候変動影響への認識が高まり、健康被害や災害への備えが浸透している。

生物多様性

- 生物多様性への認識が高まり、緑や生き物のすみかを増やす・守ることや水循環を意識した暮らし・仕事が営まれている。
- 樹林地や公園などの緑の拠点と、まちなかの小さな緑が連続して、緑のネットワークが形成されている。
- カワラノギクなど市内の貴重な動植物への認識が高まり、保全活動が盛んに行われている。

資源循環

- プラスチックごみ、食品ロスを抑制する仕組みがある（売り方・買い方の双方に取組がある）。
- 資源化までを意識した適正な分別排出が浸透し、収集した資源が有効に活用されている。
- 近隣自治体との広域連携による資源の融通・循環に向けた動きが進んでいる。

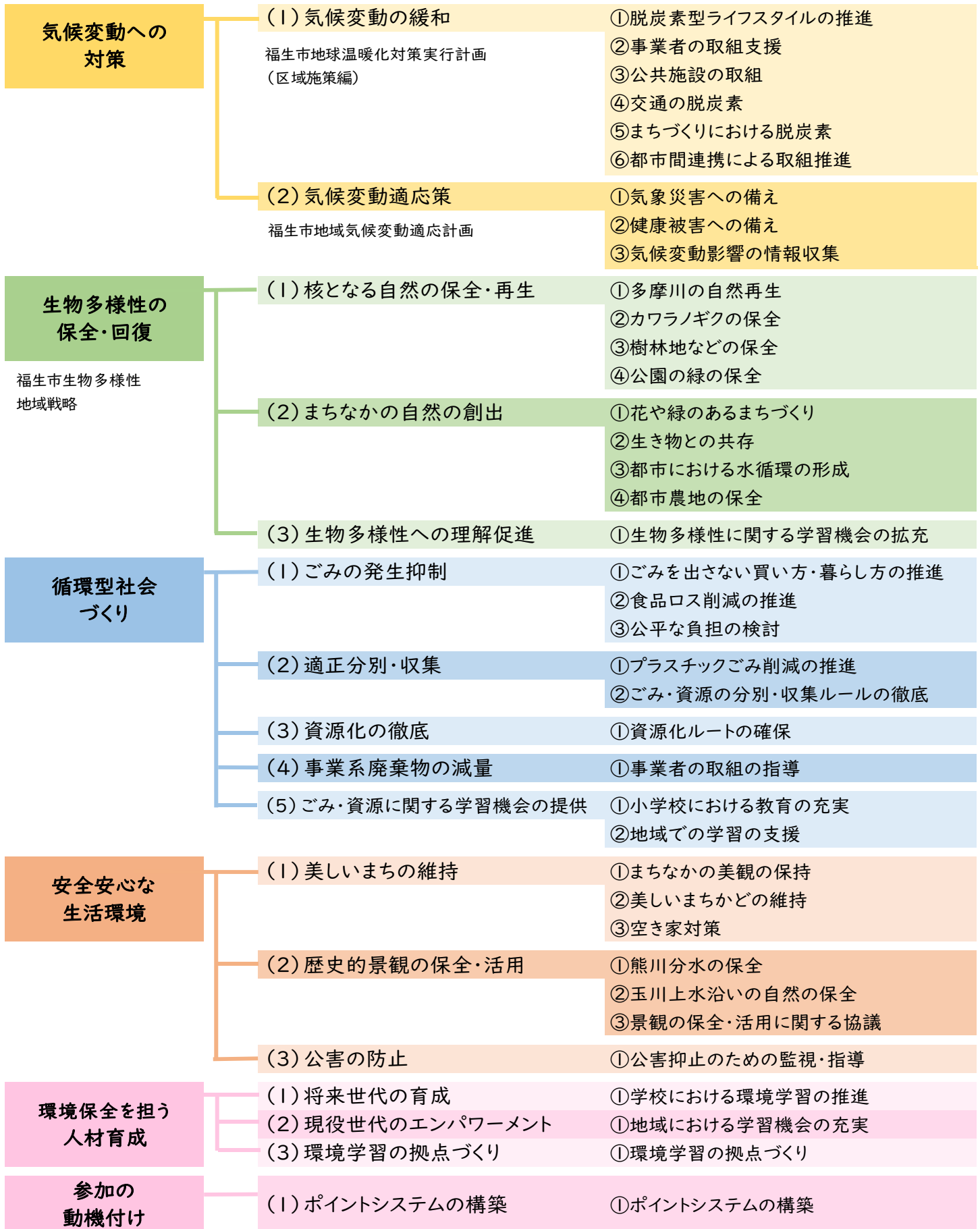
安全・安心

- 清潔で気持ちよく散歩できるまちになっている。
- 福生らしい眺めを大事にした景観が形成されている。
- 騒音や大気汚染などの問題が改善されている。

環境学習 人材育成

- 環境に関する情報発信・学習の拠点がある。
- 環境活動やまちづくり活動に多様な層が参画する仕掛けとしてのポイントシステムが機能している。
- あらゆるレベルでのコミュニティ活動が活発に動いている。

「目指すべき姿」を実現するために、行政として次のような行動に取り組みます



脱炭素へ向けた取組を支援する

- ✓ 住宅・建物の断熱化を推進したり、太陽光発電などの再エネ機器、高効率家電などへの買い替えを促進します。
- ✓ 再エネ比率の高い電力会社への切り替えを支援します。

生物多様性の理解・行動を広める

- ✓ 生物多様性保全のシンボルとして「カワラノギクプロジェクト」を継続し、参加の輪を広げます。



ごみを出さないライフスタイルを広める

- ✓ 物を買すぎない・持ちすぎない、廃棄時のことも考えた製品選択など、ごみの排出抑制に向けた情報提供をしていきます。
- ✓ 食品ロス削減と生活困窮者支援につながるフードドライブを実施します。

美しいまちかどを維持する

- ✓ 家庭ごみ収集運搬委託業者と連携したポイ捨てごみの回収や、道路美化ボランティア制度、マナーアップ指導員の活動などにより、清潔で美しいまちづくりの推進を図ります。

学校でも地域でも学びの機会をつくる

- ✓ 地域の特色を生かした学校独自の環境学習の取組を支援します。
- ✓ オンデマンドなど多様な手法を検討し、あらゆる人の学習意欲を引き出す環境学習講座を企画します。
- ✓ 環境学習の拠点づくりを検討します。

気候変動のリスクに備える

- ✓ 自然災害に備え、市民一人ひとりの防災行動を促進します。
- ✓ 熱中症にならないよう、イベント時の対策や公共施設での「まちなか涼み処」の展開、緑地・樹木の確保を進めます。



小さな緑を増やす

- ✓ 花いっぱい運動や、自宅でできる緑化（庭木・生垣・花壇・菜園）を推進します。

プラスチックごみ削減において連携する

- ✓ ECO FRIENDLY認証制度を通じて事業者働きかけ、プラごみ削減の取組（マイボトルへの給水、持参容器での食品販売など）を促進します。



玉川上水・熊川分水を保全・活用する

- ✓ 熊川分水の景観重要資源指定箇所における維持活動を継続し、市内外へ向けたPRを展開します。
- ✓ 玉川上水の観光誘致に向けて、自然・生態系を含む情報発信を強化します。



いつもの暮らしや仕事で未来をはぐくむアクションリスト

「エコシティふっさ」を実現するには、行政・市民・事業者がそれぞれの立場で、また時には協働して、環境について考え、行動することが必要です。

ここでは、市民や事業者の皆さんが、日々の暮らしや仕事の中で取り組めるアクション（行動）の例を掲載しています。いつもの暮らしやなりわいの中で実践できることを一つでも多く増やしていただくことで、暮らしながら・働きながら持続可能な地域づくりに貢献できるライフスタイルに近づきます。

《気候変動を意識したアクション》

- 建物の断熱性能を高め、寒さや騒音の解消と省エネを両立しましょう。
- 太陽光発電や蓄電池、太陽熱利用システムの導入を積極的に検討しましょう。災害対策にも有効です。
- 価格だけでなく、再エネ比率を意識して電力会社を選びましょう。
- 気象災害のリスクは市内全域で様々にあります。日ごろから備えましょう。
- 熱中症予防のため、地域で声を掛け合いましょう。

《生物多様性を意識したアクション》

- 洗車時に洗剤を流したり、雨水ますにごみを捨てたりしないようにしましょう。
- 庭やベランダで家庭菜園やガーデニングに取り組みましょう。肥料や除草剤、防虫剤の使い過ぎに気を付けましょう。
- 敷地全面をコンクリートで覆わない、植栽を設けるなど、雨水浸透や緑の確保ができる土地の使い方を意識しましょう。
- 自然体験や公園・緑地管理のボランティア活動などに参加し、身近な自然を守りましょう。

《循環型社会を意識したアクション》

- 「できるだけごみを出さない」ことを考えた買い物の仕方を意識しましょう。
- 使い捨て商品ではなく、長く使える質の良い製品を選びましょう。
- 事業所では、プラスチック包装材を紙や木材などに切り替えましょう。
- 小売店・飲食店では、お客さんが持参した容器で総菜を販売する、マイボトルに給水するサービスを行うなどの取組を検討しましょう。

《生活環境を意識したアクション》

- 生活や事業活動の中で、騒音・振動・悪臭や水・空気の汚染などが生じないように配慮しましょう。
- ごみのポイ捨てや歩行喫煙をしない・させないため、自宅や事業所周辺の清潔の保持に努めましょう。
- 外国人住民の比率が高まっていることを受け止め、文化の多様性をリスペクトして積極的に交流しましょう。

取組の進展度合いを定期的に把握・評価していきます

項目	現況	目標	
市域の民生部門温室効果ガス排出量	221千t-CO ₂ (2020年度)	140千t-CO ₂ (2030年度)	
市内の再生可能エネルギー導入量	4,318MWh/年 (2021年度)	65,937MWh/年 (2033年度)	
日常的に適応行動をとっている市民の割合			
A: 気象災害などの際の避難場所・経路の確認	19%	80%	
B: 暑さを避けた活動時間・時期の変更	40%	80%	
	(2022年度)	(2033年度)	
カワラノギクプロジェクトの認知度	43% (2022年度)	70% (2033年度)	
生物多様性に資する行動をしている市民の割合			
A: 庭やベランダでの植物・野菜の栽培、庭木の育成	45%	70%	
B: 身近な公園や緑地の清掃や維持管理、保全活動	33%	35%	
	(2022年度)	(2033年度)	
みどり率	31.8% (2018年度)	現状維持	
ごみ総排出量	15,087t (2021年度)	14,614t (2033年度)	
ごみの発生抑制に資する行動をしている市民の割合			
捨てる際の分別・リサイクルしやすさを重視した商品の選択	46% (2022年度)	80% (2033年度)	
環境基準達成率	水質(総合的に評価)	98%	100%
	大気(総合的に評価)	100%	100%
	道路騒音	87%	100%
	航空機騒音	50%	50%
景観・美観対策への満足度			
A: 福生らしい景観の保全(自然・歴史・文化)	59%	70%	
B: ごみのポイ捨てや歩行喫煙禁止などの対策	37%	45%	
	(2022年度)	(2033年度)	
環境に関する講座・体験活動に参加した市民の数 (延べ人数)	—	累計40,000人 (2033年度)	
環境に関する講座・体験活動に参加した児童・生徒の数 (延べ人数)	—	2,900人/年	

第2次福生市環境基本計画(案)【概要版】

令和6年3月

発行: 福生市

生活環境部 環境政策課 環境政策係

〒197-8501 東京都福生市本町5

電話: 042-551-1511(代表)



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

第2次福生市環境基本計画の本編は、市ホームページからご覧いただけます